

1. 調査報告概要表

作成日 2009年1月23日

【評価実施概要】

事業所番号	1591600059
法人名	株式会社 ライフケア
事業所名	グループホームまゆ池の平
所在地 (電話番号)	新潟県 妙高市 関川 2351番地1 (電 話) 0255 - 86-2314
評価機関名	エム・エム・シー総合コンサルティング 株式会社
所在地	新潟県 上越市 富岡 3446
訪問調査日	平成20年12月3日

【情報提供票より】(平成20年11月14日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成20年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤	7 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 7.2 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	2 階建て	1 階	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	47,000 円	その他の経費(月額)	約20,000円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 200,000円	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,400円		

(4) 利用者の概要(平成20年11月14日現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名
要介護1	4 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.6 歳	最低	69 歳	最高	87 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	県立妙高病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然環境が豊かな妙高高原のリゾート地の中にある、企業の保養所を改装して作られた、1つの建物の中で小規模多機能と併設されたグループホームです。保養所として使われていただけあって、建物はホテルのように広々としており、温泉が引かれているといった充実ぶりです。グループホームの管理者がムードメーカーとなり、わきあいあいと明るい雰囲気の家となり、職員はお互いに尊重し合い、良好な関係が築かれていますので、今後も協力し、今回の課題を改善し、よりサービスが提供されることを期待します。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が初めての調査となるため該当しません。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	月に1回の職員会議で夏から取組みを始め、評価に対する理解を行った上で、自己評価を全職員が行い、とりまとめて作成されています。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	事業所からの報告に加え、研修や防災訓練を徹底するようにとの参加者からの要望や意見があり、改善やサービスの向上の取組みに活かされています。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	相談箱の設置、年2回の家族会を通して、家族の意見が吸上げられています。寄せられた意見に対しては職員会議にて対応が検討されています。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域運動会などの地域の行事への参加、地域の草刈などの地域活動への参加、納涼祭などの事業所の行事への地域住民の招待が行われています。また、地域のボランティアへの施設の開放(場所の提供)も行われています。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	もともとマンションの経営を行っていた母体の会社が、入居者の高齢化に伴い、地域の中でそのままの生活を送ってもらいたいという思いから、「その人らしく 安心と安らぎ 地域とのふれあい」という地域密着型サービスとしての理念が作られています。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	いつでも目にするよう建物内の数箇所に掲示されているとともに、ミーティングの際に理念をもとに、実際にどう動いたらいいのかが職員間で話されています。		
2-2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族に対する説明や、パンフレットや広報誌に理念を記載し、町内に配布するなどの取組みが行われています。		
2. 地域との支えあい					
	3	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域運動会などの地域の行事への参加、地域の草刈などの地域活動への参加、納涼祭などの事業所の行事への地域住民の招待が行われています。また、地域のボランティアへの施設の開放(場所の提供)も行われています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	4	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	月に1回の職員会議で夏から取組みを始め、評価に対する理解を行った上で、自己評価を全職員が行い、とりまとめて作成されています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所からの報告に加え、研修や防災訓練を徹底するようにとの参加者からの要望や意見があり、改善やサービスの向上の取組みに活かされています。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者からの指導やアドバイス、地域包括支援センター主催の研修への参加や対応困難事例の相談など、連携してサービスの質の向上に取り組まれています。		
6-2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	資料の配布に加え、朝の申し送りなどの機会をつかい周知徹底が図られています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	事業所からのお便り、家族が来訪された際の管理者からの説明、電話連絡等により、利用者の様子や健康状態などが報告されています。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談箱の設置、年2回の家族会を通して、家族の意見が吸上げられています。寄せられた意見に対しては職員会議にて対応が検討されています。		
8-2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議、毎日の申し送りにより、職員からの意見や提案を聞く機会設けられ、開設時からの職員を中心に建設的な意見交換が行われています。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	レクでの利用者への紹介や家族会での家族への紹介、申し送りによる情報共有により、ダメージを防ぎ信頼関係を崩さない配慮が行われています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
9-2	18-2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。	必要なマニュアルは一通り完備されており、適宜、追加や見直しが行われています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加を奨励し、研修参加者からの伝達研修や、職員会議にて内部研修が行われています。加えて、職員のレベルに応じたOJTが実施されています。		職員が必要とする研修が効率的に行えるよう、年間を通じた研修計画を作成することを期待します。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所で行う行事の際に、地域のグループホームの利用者と職員を招き、交流が行われています。		職員同士の交流や合同の勉強会などに発展させていくことを期待します。
11-2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員会議の場や日常的なコミュニケーションにおいて、職員のストレスに対する配慮が行われています。また、勤務日程への配慮や休憩時間と休憩場所の確保が行われています。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に見学に来てもらい、実際に利用者と生活の一部をともにすることや、面談において丁寧に説明を行うことで、納得をもらって利用開始できるように配慮されています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	1日に1度は一人ひとりの利用者といっしょに向き合う時間を確保するよう努め、利用者の良いところを引き出し、楽しく生活を共にする中で、喜怒哀楽を共にすることや、年長者として敬う関係づくりが行われています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
13-2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の相談にも対応することで、家族の気持ちや思いを受け止めた上で、家族にも協力してもらい、共に利用者を支える関係が築かれています。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始時のアセスメントに加え、日々のケアにおけるコミュニケーションや行動から得た情報が記録されていますが、収集した情報の活用に課題が残ります。		アセスメントで得た情報に日々のケアから得た情報を蓄積し、一元的に情報が集約され、活用されることを期待します。
14-2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	思いや意向の把握同様、利用開始時のアセスメントに加え、日々のケアにおけるコミュニケーションや行動から得た情報が記録されていますが、収集した情報の活用に課題が残ります。		思いや意向の把握同様、アセスメントで得た情報に日々のケアから得た情報を蓄積し、一元的に情報が集約され、活用されることを期待します。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時や面会時に家族の意向を把握し、申送りや職員会議にてディスカッションを行った上で、ケアプランが作成されています。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月に1度の定期的な見直しと、状態変化による随時の見直しが行われています。また、生活支援確認表に支援内容を記載し、日々職員によるモニタリングが行われています。		日々のモニタリングを踏まえて、職員会議の場などを活用し、月に1回程度の定期的なモニタリングが行われることを期待します。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の宿泊など、希望に応じた柔軟な対応や、同じ建物内に併設されている小規模多機能との交流など、多機能性を活かした支援が行われています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望するかかりつけ医での受診が行われています。受診の際は職員が同行し、事業所と医療機関との情報交換も直接行われています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現状、重度化や終末期に対する具体的な取り組みは行われていません。		職員間で重度化や終末期に対する考え方を共有し、事業所としての方針を確立した上で、段階的に体制を確立していくことを期待します。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に関する方針や目的に基づいた取扱いが行われています。また、新入社員オリエンテーションや日々の申送りを通して、羞恥心に対する配慮が周知徹底されています。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	寝起き・食事・入浴など、利用者の希望や意向を踏まえて、一人ひとりにペースを尊重したケアが行われています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	差し入れなどの旬の食材を取り入れ、対応できる範囲内で利用者の嗜好に応じたメニューが提供されています。また、簡単な調理や準備、食事、後片付けを利用者と職員が共に行われています。		
22-2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェックを行い、排泄パターンや仕草を職員間で共有し、トイレ誘導が行われています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	もともと保養所であった建物の良さを利用し、浴室は広く、温泉が引かれています。ある程度の時間設定はされていますが、一人ひとりの体調や希望に応じて柔軟な対応がとられています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの力を活かし、家事仕事などの役割、歌や作品作りなどの気晴らしの支援が行われています。また、併設の小規模多機能と合同でレクが行われています。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な散歩や外気浴に加え、ショッピングセンターへの買い物や観光スポットなどへの外出支援が行われています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
25-2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議などを通し、全職員に身体拘束をしないケアが周知徹底されています。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	行動パターンの把握、定期的な所在確認と見守りにより、日中は鍵をかけないケアが実践されています。		
26-2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒアリハット報告書・事故報告書を活用し、申送りでも共有、全体会議にて再発防止策が検討されています。		
26-3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署主催の救命救急講習を全職員が受講し、急変や事故発生に対する備えが行われています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域住民とともに避難訓練が行われています。また、地域の防災訓練にも参加し、地域との防災に関する連携も図られています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量のチェックを行い、栄養確保や水分量確保の取り組みが行われています。また、管理栄養士が作成した配色サービスの献立を取り入れ(献立のみ)、栄養バランスへの配慮も行われています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	企業の保養所であった建物を改装しているため、広々としており、共有スペースの天井は高く、開放感があります。ところどころにソファを配置するなどにより、利用者一人ひとりが居心地よく過ごせる場所も確保されています。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持ち込んでもらうよう働きかけ、写真や思い出の品が置かれ、居心地よく過ごせる工夫が行われています。		